

# 花高同窓会報



## 第106号

発行 平成25年11月1日

秋田県立花輪高等学校  
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (有)大館孔版社



### 会長挨拶

## 地域の発展と高校生への期待



同窓会長 井上高廣 (高18期)

皆さんは斉藤憲三さんという方をご存知ですか？由利本荘市の出身でTDKの創設者です。彼の父親は代議士で、地元の発展に尽くされた方です。斉藤憲三さんは早稲田大学を卒業後、いくつもの事業を起し失敗の後に、フェライトの工業化に成功、ビデオテープやフロッピーディスクなどをつくる東京電化工業(TDK)を東京で設立しました。彼の生まれた仁賀保地区は農業が主産業で農家の長男が後を継ぐと次男・三男はみんな故郷を去っていききました。地元で仕事があればみんな故郷で暮らすことができるかと考え、自分の故郷にTDKの工場を作りました。

世界的な企業が秋田県にあるのは地元を思う熱い心を持った斉藤憲三さんがいたからです。

日本は二〇〇五年に人口の減少期に転じ毎年加速度的に人口が減っていきます。四十年後には日本全体の人口が九、〇〇〇万人台となり三、〇〇〇万人以上減少すると言われています。秋田県は人口減少日本一です。鹿角地区は比較的減少率が小さいようですが、い

れ人口が減少することは間違いないと思います。町に人がいなくなると商売が成り立たなくなることをはじめ市の財政も厳しくなり地域の生活環境は大きく変わります。

今の社会は、明るい未来を想像できる状況にはありません。自分さえよければそれでよいという時ではなく、地域や国、世界のために活躍してくれる人間を育てていかなければならない時代だと考えています。花輪高校の生徒の皆さんには、斉藤憲三さんのように自分だけではなく人のためにも頑張る志とそれを実現できる確かな力を身に付け、地域の発展に貢献される人間に育ってほしいものです。地域は地域に根差す地元高校の卒業生によって支えられます。我々同窓会はこのような生徒が育つように、母校を支援して行きたいと考えています。現在同窓会では母校花輪高校を支援できる力を蓄えるため活性化計画を作り、多くの同窓生が集まる同窓会にしようという活動中です。全国の同窓生のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

**横顔**  
●会長二期目●職歴…西仙北高校長、能代高校長●趣味…ゴルフ、スキー、旅行●特技…野菜作り●座右の銘…至誠力行

### 平成25年度 総会風景



—石崎校長緊張のデビュー挨拶—



—指を折って、歓談！—

杉江顧問の乾杯で懇親会スタート



演題 『次世代に繋ぐ  
新アグリビジネスについて』  
鹿角NCL株式会社  
代表取締役  
高橋 健一  
(高30期)



## 平成26年度 総会・日時決まる!!

日時…平成26年5月10日(土) PM6〜  
場所…芳茹荘 会費…3,000円

【連絡先】 ☎0186232126 担当・木村まで

「青垣山をめぐらせる 名ぐはしの国 国のまほろば われらの花輪……」と校歌にあるように、花輪は正に「まほろば」であり、一七、七九二名の先輩諸氏に敬意を表しますと共に、本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに、衷心より感謝し、厚くお礼申し上げます。



新学校長 石 崎 國 人

『「今」を「本気」で』

て代わられることがない個性を持ち、潜在能力を持ち、豊かな人間性を持ち合わせていることです。今このひと時はすでに過去になり、そして、未来へつながるひと時なのです。ある高校で、生徒に座禅をくませたことがありました。その時、住職は「秒針音は今、今、と刻む音に聞こえる。赤ちゃんも、老人も何歳まで生きる保証はない」と、今のひと時の重要性を説いてくださいました。

本校の生徒には「本気になる」とことと「チャレンジし続ける」ことをキーワードに切磋琢磨して欲しい事を始業式や、事あるごとにその思いを伝えるようにしています。お陰様で吹奏楽部は東北大会出場を果たし、また、駅伝女子が全国に出場します。今後、我々教職員は「文武両道」をめざし、一丸となって生徒を育んでいく所存です。

同窓生の皆様にはご自愛いただきながら、今後も花輪高校を見守り、応援してくださいます。ことを切にお願い申し上げます。そして、皆様の益々のご活躍をお祈りいたしております。

「青垣山をめぐらせる 名ぐはしの国 国のまほろば われらの花輪……」と校歌にあるように、花輪は正に「まほろば」であり、一七、七九二名の先輩諸氏に敬意を表しますと共に、本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに、衷心より感謝し、厚くお礼申し上げます。

横 顔

●一九五五生まれ ●前任：  
県立比内養護学校校長 ●高  
校・器械体操部(二年) ●大学・詩  
歌研究会・音韻研究会・論語研究会  
中国劇キヤスト、監督 ●趣味・音楽  
鑑賞 ●ホップスからクラシックま  
で ●座右の銘：粉骨砕身及び忠恕

【平成24年度 同窓会決算書】

収入総額 2,228,514円  
支出総額 1,708,064円  
差引残額 520,450円

収入の部

項 目	本年度予算額 (A)	本年度決算額 (B)	増 減 (B)-(A)	摘 要
1. 会 費	1,548,000	1,779,260	231,260	
(1)会 費	900,000	1,134,500	234,500	同窓生会費
(2)入 会 費	648,000	644,760	△ 3,240	@1,440円×450人
2. 繰 越 金	449,171	449,171	0	
3. 諸 収 入	829	83	△ 746	
合 計	1,998,000	2,228,514	230,514	

支出の部

項 目	本年度予算額 (A)	本年度決算額 (B)	増 減 (B)-(A)	摘 要
1. 会 議 費	50,000	27,600	△ 22,400	総会費用
2. 会 務 費	665,000	600,084	△ 64,916	
(1)旅 費	200,000	160,340	△ 39,660	宮城・東京支部総会
(2)消 耗 品 費	5,000	4,918	△ 82	用紙代他
(3)通 信 費	400,000	378,226	△ 21,774	同窓会会報発送費等送料
(4)振 込 手 数 料	60,000	56,600	△ 3,400	会費振込手数料
3. 事 業 費	460,000	376,320	△ 83,680	
(1)印 刷 費	350,000	294,365	△ 55,635	会費振込用紙、会報(2回)
(2)記 念 品 費	60,000	48,615	△ 11,385	卒業記念品(印鑑ケース)
(3)広 告 費	25,000	13,340	△ 11,660	高校野球等
(4)行 事 費	5,000	0	△ 5,000	
(5)広 報 費	20,000	20,000	0	ホームページ充実費用
4. 渉 外 費	45,000	1,160	△ 43,840	
(1)負 担 金	5,000	0	△ 5,000	
(2)渉 外 費	20,000	0	△ 20,000	
(3)慶 弔 費	20,000	1,160	△ 18,840	弔電
5. 助 成 費	500,000	490,000	△ 10,000	
(1)部活動助成費	410,000	430,000	20,000	インターハイ激励会 部活動後援会助成
(2)支部助成費	90,000	60,000	△ 30,000	宮城・秋田支部
6. 備 品 費	14,000	12,900	△ 1,100	卒業アルバム
7. 積 立 金	200,000	200,000	0	定期預金
8. 雑 費	5,000	0	△ 5,000	
9. 予 備 費	59,000	0	△ 59,000	
合 計	1,998,000	1,708,064	△289,936	

※会費の納入有難うございます。

【平成25年度 同窓会予算書】

収入総額 2,042,000円  
支出総額 2,042,000円  
差引残額 0円

収入の部

項 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A)-(B)	摘 要
1. 会 費	1,520,640	1,548,000	△ 27,360	
(1)会 費	900,000	900,000	0	同窓生会費
(2)入 会 費	620,640	648,000	△ 27,360	@1,440円×431人
2. 繰 越 金	520,450	449,171	71,279	
3. 諸 収 入	910	829	81	
合 計	2,042,000	1,998,000	44,000	

支出の部

項 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (B)-(A)	摘 要
1. 会 議 費	50,000	50,000	0	総会費用
2. 会 務 費	670,000	665,000	5,000	
(1)旅 費	200,000	200,000	0	秋田・宮城・東京支部総会
(2)消 耗 品 費	10,000	5,000	5,000	用紙代他
(3)通 信 費	400,000	400,000	0	同窓会会報発送費等送料
(4)振 込 手 数 料	60,000	60,000	0	会費振込手数料
3. 事 業 費	465,000	460,000	5,000	
(1)印 刷 費	360,000	350,000	10,000	会費振込用紙、会報(2回)
(2)記 念 品 費	60,000	60,000	0	卒業記念品(印鑑ケース)
(3)広 告 費	25,000	25,000	0	高校野球等
(4)行 事 費	0	5,000	△ 5,000	
(5)広 報 費	20,000	20,000	0	ホームページ充実費用
4. 渉 外 費	30,000	45,000	△ 15,000	
(1)負 担 金	0	5,000	△ 5,000	
(2)渉 外 費	10,000	20,000	△ 10,000	渉外活動費
(3)慶 弔 費	20,000	20,000	0	
5. 助 成 費	550,000	500,000	50,000	
(1)部活動助成費	410,000	410,000	0	インターハイ激励会 部活動後援会助成 PTA特別会計 (進路指導費)への助成
(2)進路指導助成費	50,000	0	50,000	
(3)支部助成費	90,000	90,000	0	秋田・宮城・東京支部
6. 備 品 費	14,000	14,000	0	卒業アルバム
7. 積 立 金	200,000	200,000	0	定期預金
8. 雑 費	2,000	5,000	△ 3,000	
9. 予 備 費	61,000	59,000	2,000	
合 計	2,042,000	1,998,000	44,000	

# ようこそ先輩

今年「針路の日」に13名の社会人を招いて授業があった。本校卒業生からコメントをもらった。

## 『皆さんに、感謝！』

村木真智子 (高38期)

後輩に保健師の仕事伝えたい、健康の大切さを伝えたいと思い、皆さんの前に立ちました。

今回の依頼を受け、これまでの自分を振り返り、改めて多くの方々の出会い、そして助けて頂いていること、いつも支えてくれる家族に感謝の気持ちを実感しました。又、後輩の皆さんに、いずれは地元に戻ってと伝えながら、今私がしていくべきことを再認識する機会となりました。

感想発表や感想文を頂き、個々の胸の中に少しでも残るものがあってホッとしました。

花高生の皆さん、今の学校生活は、将来にとって大切な栄養補給の時間です。楽しむ、悩む、感動する、いろいろな栄養素をいっぱい吸収してたくましくなってください。(鹿角市役所)

## 『高校生とふれあって』

福本 雅治 (高28期)

今年の七月にふとしたきっかけで、花輪高校に向く機会がありました。社会人講話の講師依頼があり、全校生徒が参加する研修で、二回に分けての講話をさせていただきました。

高校を卒業してから、高校に足を運ぶ機会は全くなく、新しい校舎はどういうものかとの興味もあり、期待をしながら校舎の中に入っていききました。全体が明るく、勉強する環境は素晴らしいなあと感じてきました。

さて、講話では、約八十名の学生に、「福祉の現状」についてお話をさせていただきました。鹿角市での高齢者の実態やそれを支える福祉マンパワーの現状を説明し、是非若い力を福祉に役立ててほしい旨を熱く語りさせてい

いただきました。多くの花高生待ってるぞ。

## 『母校の教壇に立って』

藤井 安洋 (高53期)

七月に社会人講話に参加させて頂き、私の仕事の内容や社会に出るにあたっての心構え等についてお話をさせて頂きました。実は高校生の頃、将来教員になることが夢でしたので、教壇に立ち、母校の生徒の為に少しでも貢献出来る事に感激をしております。

生徒の皆さんには、短い高校生活、色々な事に興味を持ち体験し、失敗を恐れず常に「チャレンジ精神」を持って目標を実現して下さい。同窓会会員の皆様におかれましては、色々な形で積極的に進路実現に向けて母校の生徒へサポートして頂けたらと思っております。今後もしも引続き母校の発展に向けて、少しでもお役に立てればと思っております。(株ドリック)

## 『郷土芸能の伝承』

毛馬内 勝又 幹雄 (高19期)

今年六月毛馬内盆踊り保存会の会長を継ぐことになった。教えて四代目となる。平成元年当時、踊り手が少なくなり、踊りの輪が小さくなっていった。その危機は町内会や婦人会の地域の協力により復活した。平成十年国の重要無形民俗文化財に指定された。

毛馬内盆踊りは手数が少なくゆったりとした踊りで、簡単なお稽古が深く、手の動きも意外と難しい。優雅で幽玄な踊りである。

高校卒業すると地元に残れないのが実情。郷土芸能は地元に残らなくては継承が難しい。そのためには地元で働く環境が必要である。

同窓会員として我々ができることは、現役生徒がその能力を十分



発揮できるよう、勉強にクラブ活動に積極的に取り組み、将来の鹿角を託せる有為な人材育成に資する事であろう。しかしそれが高校に残っているからで、その存続に知恵を傾けたいものである。

## 『鹿角ブラス』

高杉 正 (高41期)

東京鹿角会が設立二十年、十回目の総会・懇親会を開くことになり、アトラクションで鹿角の吹奏楽経験者を集めて演奏してほしいと依頼が来たのが八月。駄目元で、SNSなどでOB OGに声を掛けると五人が手を挙げてくれた。メンバーを見ると二十代から四十代、東京、埼玉、神奈川在住で楽器はトランペット、アルトサクソ、ホルン、ユーフォニアム、コントラバス、パーカッション。少ないながらもオーケストラの誕生だ。名前は「鹿角ブラス!!」本番まで時間はないが、天下の花輪高校吹奏楽部出身者が集まったからには、オリジナル曲を吹こうと決めて、作曲者に依頼。鹿角の伝説をモチーフにした三部形式の曲「鹿角の伝説」世界初演となった。初顔合わせから三回の練習で迎えた本番だったが、東京鹿角会に参加の先輩たちから大きな歓声と拍手を頂いた。最後は「花は咲く」を演奏、会場全体に鹿角人の歌声が響いたのは言うまでもない。花高吹奏楽部で培った音楽は時代や地域を超え、奏者・聴衆の垣根なく光りを放つ。いつか鹿角ブラス//で現役部員とジョイント演奏できたらと私の夢は広がった。



KAZUNOBRASS!!

## 『久しぶり!!のその一言が言いたくて』

花輪 福島 義彦 (高25期)

今年、我が第二十五期は卒業四十周年の節目の年を迎えた。そこで、過日恒例の記念同期会を開催した。この会は今回で四回目となり、五年ごとの周年記念という形で開催している。高校の同期会は、中学校のように歳祝いのようなきつかけがないため、なかなか集まりにくい。そこで男の四十二の歳祝いも終わった今から十五年前の二十五周年の時に「たまには、高校の同期会をやってみなげ」の一言から始まった。

一回目の会場はアルバスの食堂。会費を安くあげるためだった。初めてだったので、どれだけの人が参加してくれるか心配だったが、予想を上回る人が参加してくれ、わざわざ遠方から来てくれた人もいて感激したことを覚えている。

二回目のことを決めたわけではなかったが、校舎が改築され、我々が学んだ校舎がなくなる事になり、その前に校舎を見ておこうという事から二回目が開催された。集合場所は、懐かしい玄関前。3年の時の教室で席につき、昔の授業風景を再現してみた。フオークダンスもやった。文化祭のフィナーレに踊った時のことを思い出した。

二回もやったから三回目もやらなくてはならない。この時は新校舎の見学会ということにした。玄関で在校生の有志の皆さんが応援歌を披露してくれた。昔の恐怖の応援歌練習の事が脳裏に浮かんだ。

そして今回、「四十周年だからやらないわけにいがねべ」の精神のもとに開催。パーティーの合間に、過去三回の会に撮りためた写真や四十年前のスナップを上映した。当時を懐かしむと同時に、鬼籍に入られた人もおり、改めてかの人々を思い起こした次第である。



# 鹿角に元気を!!

## 79.1 MHz

### 県北初!!コミュニティFM始まる

鹿角きりたんぽ FM 株社長



朗 安保 (高42期)

## 鹿角きりたんぽ FM



このスタジオから、地域に密着した情報を発信します

### 会員寄稿

この度、故郷鹿角に際しまして、母校、花輪高校同窓会から格別のご後援を頂きまして誠に有難うございました。井上高廣会長をはじめ、役員の皆様からも同窓生の出席の呼びかけをして頂いたことを窺いました。折しも前日からの未曾有の集中豪雨のなか、開催自体が危ぶまれる状況のなかでも多くの方に出席頂きましたことは同窓会のご尽力が大きかったです。あらためて御礼を申し上げます。

人生流転との言葉もありますが、省庁再編前の経済企画庁に勤務したことで経済関係の調査、分析の仕事がもつぱらになり、そのご縁で四十七歳の時に私立大学に移ることになりました。講演会の題目「アベノミクスの可能性を見極める」は時節柄でしたが、常日頃、経済学を題材に学生に問いかけている話題を中心に取上げたものです。京都に住む私ですが、今年も母高の女子駅伝チームが京都で開催される全国高校駅伝大会に出場すると朗報に接し、同窓会関西支部は総力を挙げて応援するつもりです。また、

## 『鹿角経済講演会・同窓会の後援に感謝します』

関西支部長 坂本 信雄 (高14期)



振り返りますと、高校時代の私と言えば、生徒の長髪の実現や購買部の発足などの生徒会活動がもつぱらであり、勉強は二の次の次でした。その頃、どう見ても将来、大学で教職の途を辿るなどとは私自身はもとより、当時を知る友人たちも含めて予想できなかったことかもしれません。

この機会に同窓会の会員の皆様に応援を兼ねて京都に来られることを心から期待しております。

おでてください!

於・鹿角市記念スポーツセンター

### 第29回 国民文化祭 あきた2014

- ・ 神楽フェスティバル (H26・10・18~19)
- ・ 小倉百人一首 かるた競技全国大会 (H26・11・1~2)



### 『日本という国名と鹿角』

佐藤 隆夫 (高19期) 副会長・尾去沢



「日本という国名はいつ決まったのか」ご存知ですか。先般、網野善彦という歴史学者の著書に触れ、天武天皇が編纂、皇后の持統が六八九年施行した飛鳥浄御原令の頃が大方の学者の認めるところだと知りました。対外的には、七〇二年遣唐使の粟田直人が当時の周の中国唯一の女帝則天武后に、「日本」の使いであつたと述べたのが最初だそうです。さて、八

七八年秋田の俘囚、蝦夷が反乱蜂起し秋田城を襲った元慶の乱が始まります。反乱軍に参加したのは、上津野(鹿角)、火内(比内)、野代(能代)など十二村の蝦夷たちでした。とすると、私たちの祖先はまだ日本国に含まれず、日本人ではなかったわけで、いつから日本人になったのかと思いました。